

生長の家 神の国 寮だより

# 光の泉

the spring of light



第 19 号

30年度 春号

公益財団法人 生長の家社会事業団  
児童養護施設 生長の家神の国寮  
〒186-0003  
東京都国立市富士見台2-39-1  
tel 042-572-8770  
fax 042-573-9205  
<http://www.kamino92.or.jp/>

い試練は与えない、自分に乗り越えられない壁はないと信じています」と率直な気持ち綴っていました。東京五輪での金メダルを目指して猛練習に取り組む18歳の身にふり

かかった「まさか」の宣告。失意のどん底に打ちのめされ、悲しみの淵に沈んでしまうような理不尽さに直面しながら、彼女は堂々とこの試練を乗り越えていくことを宣言したのです。

辛い体験や様々な試練を経験して入所してきた子ども達、そしてその子ども達に寄り添い支援する職員一人一人にとつて、この池江選手の「乗り越えられない壁はない」との信念は、必ずや理不尽さを乗り越える勇気と自信となるに違いありません。

### ◇「発達障害」ではなく「発達特性」◇

もう一方は、元埼玉県教育委員長の高橋史朗麗澤大学大学院特任教授。子どもの方についての講演で話された、『私は「発達障害」と言わないで「発達特性」と言っている』との言葉に多くの気付きを頂きました。

### 詩「子は親の鏡」

子どもの発達にはどの子にも凸凹でこぼこがあります。優れた（得意な）面（凸）と未発達（課題のある）面（凹）です。高橋教授は、今、埼玉県で実践指導されている「発達支援サポーター研修」の取り組みを紹介され、「発達を支援する」という試みが多くの成果をあげていることを数々の事例をあげて話されていました。

「障害」ではなく「特性」として子どもの発達を捉え直してみると、子どもの見方が変わるように思いました。これまで、いわゆる「発達障害」と診断された子を前にすると、ともすれば問題行動にばかりに目が奪われてきたように思います。これからは、凸も凹も合わせてその子の「特性」と捉え、とりわけストロングポイントを伸ばしてあげる「発達支援」を心掛けていきたいと決意した次第です。

不安な気持ちで育てると、子どもも不安になる。「可愛そうな子だ」と言っていると、子どもは、みじめな気持ちになる。子どもを馬鹿にすると、引込み思案な子になる。親が他人を羨んでばかりいると、子どもも人を羨むようになる。叱りつけてばかりいると、子どもは「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう。励ましてあげれば、子どもは自信を持つようになる。広い心で接すれば、キレる子にはならない。褒めてあげれば、子どもは、明るい子に育つ。愛してあげれば、子どもは、人を愛することを学ぶ。

### ◇詩「子は親の鏡」◇

もうすぐ高校を卒業して都内の4年制大学に進学するA君には、大きな夢があります。高校教員となつて「簿記・会計」を教えること、難関といわれる税理士試験に合格することです。複数の施設での生活を余儀なくされたA君ですが、職員への愛深い支援のもと、得意の数学を生かし簿記資格を取得し、大学進学を実現することができました。

今春、神の国寮を巣立っていく5名の退寮生に幸あれ！

最後に、本年5月皇位を継がれ 天皇陛下として即位される皇太子殿下が推薦されたとお聞きしました詩を掲載して、新年度にむけた決意とさせて頂きます。

（『子どもが育つ魔法の言葉』 ドロシー・ロー・ノルト著）

光の泉 年度末を迎え、今年も多くの方々から様々なご支援を賜りましたこと、衷心より感謝申し上げます。とりわけ、今年も大学や専門学校等に進学する児童にサポート・ペアレントの皆様からの支援金を拠出させていただきますことを、謹んでご報告させていただきます。進学の道を諦めることなく進むことができる幸せをかみしめる子ども達に代わり心より御礼申し上げます。本当に本当にありがとうございます。

### 「子どもは鏡」

「特性」を認めて伸ばす 施設長 國弘昭義

### ◇「乗り越えられない壁はない」◇

最近、二人の方の言葉に感銘を受けました。

第19号 一人は、白血病を公表した競泳の池江璃花子選手。二月十三日、自身のツイッターを更新し、「神様は乗り越えられな